

～JFMA 公共インフラマネジメント連続シンポジウム報告（2）～

（特非）社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会（SLIM Japan）
副理事長 鈴木 泉



前回に続き、JFMA 公共タスクフォース主催、SLIM Japan(講師、パネリスト)、インフラメンテナンス国民会議市民参画フォーラム協力による公共インフラマネジメント連続シンポジウム後半2回の開催を報告する。このシンポジウムは、公共施設等総合管理計画を実行に移す際に参考となる知識や情報を取得できる勉強会である。講師による講演と続いてパネルディスカッション、会場とのトークセッションと全員参加型の連続4回の内容である。



第3回基調講演

第3回平成30年11月17日(土)は、「橋の調査・点検・診断の近未来展望（AIの活用）」をテーマとし、宮本文穂氏（山口大学名誉教授、SLIM Japan 理事）より「橋の健康診断と余寿命推定」のタイトルで基調講演、続いて山中鷹志氏（元日本道路公団、SLIM Japan 理事）、澤健男氏（元国交省）、窪田論（関西大学准教授）、浅野和香奈氏（日本大学研究員）、と4人のパネリストを加え、コーディネーター鈴木泉（SLIM Japan 副理事長）の進行でパネルディスカッションを行った。講演では、公共インフラは大量に造る時代から維持管理によって長寿命化させる時代が変わった。橋梁などの構造物の現状を健康診断（評価・判定）し、必要に応じて治療・リハビリ（補修・補強計画）する「構造物のお医者さん」のようなシステムの構築が必要とする。既存のコンクリート橋を対象として、健康診断システム及び余寿命推定に至る一連の流れが実例を用いて紹介された。橋の基本構成と役割、そして劣化を引き起こす要因を正しく知ること。インフラドクターを育成する必要性、また日常的な排水樹の清掃の必要性を教育するなど。さらに今後 AI を適用する前に、いろいろな要素を理解することなどが強調された。



パネルディスカッション
（話題提供）

パネルディスカッションでは、「健全な維持管理をするために、何をどのように変えれば良いか。少し視点を変えて見るなど。」を論点とした。山中氏は、合理的な点検、分かりやすい評価法、保全・補修技術、管理手法の確立を強調し、中小市町村の広域組合（消防、清掃工場の例）を紹介された。澤氏は、「コンクリート構造物のマネジメント」の話題とし、最劣化が生む負の連鎖、補修後のトラブルについて、特に塩害対策について意見した。窪田氏は、「維持管理の日常履歴データを IT 技術で効率化を目指す方法」土木工学と情報システムの融合について近未来の可能性を語った。浅野氏からは、市民協働事例として、インフラメンテナンス国民大賞受賞「みんなで守る橋のセルフメンテナンス福島モデルの構築と実践」を紹介された。一般市民でも橋の点検ができるチェックシートを作成し、活用することで地域での予防保全活動となった。また技術者も活用し、日本各地での点検・清掃活動と広が

っていること。さらにインフラに対するの関心・愛着に繋がるセルフメンテナンスについて強調された。

会場からの意見：「複数年の包括契約は、新しい点検技術を加速させるのでは」「近接目視に変わる技術革新も必要だが、全橋点検の見直しも必要では」「橋も人も寿命がわかれば、何をすべきか考える」「橋のセルフメンテナンスは、まさに予防保全モチベーション向上策」など、新たな視点での意見が多く出た。今回のシンポジウムでは、橋の維持管理など具体的な内容を取り上げて地方インフラの現実の状況を知り、見えなかった問題解決の方向性が共有できたことが大きな成果だと思う。

第4回平成30年12月15日のシンポジウムは、「民間セクターの活用」民間資金PPP/PFI事業の活用をテーマで開催された。基調講演では、海藤勝氏（英国仲介士、SLIM Japan 理事）より4つの、1）官民パートナーシップ事業スキームの基本、2）公共セクターのコミットメント、3）リスク分担とVFM（バリューフォーマネー）、4）インフラマネジメントとインフラメンテナンスについてPFI事業の重要なところを分かりやすく海外実績から説明された。続いて、話題提供として国内事情「日本のインフラ投資ビジネスは今」、菅健彦氏（インフラビジネス JAPAN 編集長）、「民間提案に有料道路事業の運営について」中川均氏（株白糸ハイランドウェイ代表取締役）の二人のパネリストを加えパネルディスカッションとなった。



第4回パネリスト紹介

菅氏は、「日本の公共インフラの投資は予想どおり鈍い。民間のインフラ投資特にエネルギーは活発であり、海外進出も予想外に多い。集客力のあるコンテンツを持つ民間が主導でそれを自治体がどう誘致できるか、民が官を選ぶ時代」と。中川氏からは、「道路を買収し、地方自治体の抱える課題と同じ諸問題の一つずつ解決してきた。地域協働ワークショップからサービスレベルを設定し、維持管理コストを見える化し、スタッフ全員のコストとサービスの意識を高めた」など、マネジメントの実際を紹介された。現在の課題「何が問題か、解決にヒントは」の議論の中で、公共セクターのコミットメント（事業化の環境作り）



全員参加のトークセッション

財政支出・VFMの明確化があって民間セクターに競争意識が出ること。リスクを負えるコントラクターの資質・資格の有り方について強調された。「VFMの定義があいまいだ」「メンテナンスをきちんとすれば、アセットの価値は保たれる」の意見。続いて地方公共にどう活かせるかについては、まず、「PPP/PFI 推進アクションプラン概要」を共有してから議論した。「まず政府がイニシアチブを取りコミットメントすることが重要」「国内の小さいパッケージにどうつなげるか」など。

また会場とのトークセッションでは、「ハコモノに比べ道路等のインフラはリターンがわかりにくい」「政府が具体的にどうコミットメントすれば良いか」「首長のやる気・覚悟がないと職員の意識は上がらない」など多くの意見が交わされた。第4回目は、まさに公共インフラの現状を知り、FM活動をいかにマネジメントに活かすためとして最終に相応しいシンポジウムになったと思う。

既に参加者アンケートからも、大きな評価を頂いているので、この4回の連続シンポジウムの成果を更なる活動として次に繋げて頂くことを期待したい。